

# Les Collections des Textiles Japonais en Le Musée des Arts Décoratifs

関根 理恵\*

## 要 旨

明治期に入り、文明開化により西欧との交流が盛んとなり西洋文化が普及するとともに、日本の伝統文化が海外に知られることとなった。そして数多くの美術品が、当時日本にいる外国人の手を経て海外に渡った。その当時の記録が史資料に散見される。その多くは、絵画および彫刻に関する情報が多く知られているが、工芸品については、具体的にどの作品が海外にわたったのか、数例を除きその詳細は具体的にわかっていない。

そこで今回、Le Musée des Arts Décoratifs にてフランスに渡った美術工芸品を対象とし、染織文化財に的を絞って精査を行った。

研究の結果、以下のことがわかった。① Le Musée des Arts Décoratifs は、その設立母体との関係から、平面デザインとしての価値を基準として美術工芸品のコレクション化が行われており、それには Bing Siegfried が深く関わっていたこと。② Le Musée des Arts Décoratifs の所蔵する日本の染織文化財群では古裂のコレクションが充実しており、収集された 18 世紀末から 19 世紀という特定の年代が、明治の神仏分離・廃仏毀釈の時期と重なり、日本国内に残っていない宗教美術品と見られる古裂類がコレクションされていること。③江戸期の能装束と見られる唐織がコレクションされていること。また、袈裟関連資料を確認でき、とくに江戸期に珍重されていたと推測される大陸由来の 14-16 世紀の貴重な刺繍袈裟が収蔵されていること。

**Keyword** : Textiles Japonais, Le Musée des Arts Décoratifs, Bing

## はじめに

明治期に入り、文明開化により西欧との交流が盛んとなり西洋文化が普及するとともに、日本の伝統文化が海外に知られることとなった。数多くの美術品が、当時日本にいる外国人の手を経て海外に渡った。その当初の記録が史資料に散見され、その多くは、絵画および彫刻に対する情報が多く知られている。一方で、工芸品については、具体的にはどの作品が海外にわたったのか、数例を除き、その詳細は具体的にわかっていない。そこで、研究の足掛かりとしてパリ（フランス）にある Le Musée des Arts Décoratifs にてフランスに渡った美術工芸品を対象として研究を開始し、今回は、当館に所蔵されている在外文化財のうち、染織文化財に的を絞って精査を行った。

## 研究目的

本研究では、19 世紀に日本よりフランスに流出した文化財のうち、特に染織文化財を対象として調査を行う。日本の染織文化財がどの程度存在しているのか、そして、それらの作品群の内容および、その特徴を把握することが目的である。

## 研究方法

### (1) 資料データの収集

資料データの収集にあたって、まず最初に、作品の収蔵および保管管理、展示等にデータが書き込まれた管理用個別調書の精査分析および文化財データの取得、および関連分野の学術研究論文等の調査・分析をおこなった。また、歴史的資料に関しては、主にフランス国立図書館に保存されている当時の資料を分析した。

2015 年 11 月 30 日受付

\* 江戸川大学 現代社会学科専任講師 文化財学

## (2) 現地調査

資料データ収集のために、Le Musée des Arts Décoratifs の協力を得、現地博物館内にて調査を行った。

研究機関：Le Musée des Arts Décoratifs 111,  
Rue de Rivoli 75001 Paris, FRANCE

## 先行研究

19 世紀半ばより欧米において日本の美術工芸が注目されていた事例は、多くの研究者によって指摘されている。それらの研究は、万国博覧会に関する研究や、ジャポニズム研究といった分野で盛んに行なわれてきた<sup>(1)</sup>。特に、1876 年に Claude Monet が描いた絵画「La Japonaise (Camille Monet in Japanese Costume)」はあまりにも有名で、多くの研究者がジャポニズムにおける着物（染織品）が果たした役割について指摘してきた<sup>(2)</sup>。着物が与える影響が大きいと考えながらも、従来の研究者による成果は、絵画とくに欧米人が描いた油画や、日本から流出した版画に関する研究が多く、在外の日本の染織品そのものに関する研究はあまり行われてこなかった。最近では、2006-2007 年にパリの Maison de la Culture du Japon にて開催された「Exposition Katagami : les pochoirs japonais et le japonisme<sup>(3)</sup>」により、フランスにある染織文化財が注目されることになり、深井らによって 2009 年から 2011 年にかけてフランスおよびイギリスで着物を中心としたジャポニズムの視点にたった日本の染織品の研究が行われた<sup>(4)</sup>。日本では、先述した 2007 年にパリで開催された展覧会と同様のテーマで、2013 年に京都国立近代美術館で開催された「KATAGAMI Style - もうひとつのジャポニズム」が開催されることで、日本からの視点にたった、フランスに渡った染織品が注目されるようになった<sup>(5)</sup>。

## 本研究の意義

先行研究では、フランスに渡った染織文化財を研究しているものの、ジャポニズム期に限定し、着物および選抜した極く限られた染織品のみを対象としているため、調査分析内容に恣意的偏りが

あり、コレクションの内容および全体像が把握しにくい。また、歴史的観点にたった分析がジャポニズムという一般的なテーマによって締めくくられているため、収蔵された経緯など、なぜコレクションが形成されたのかについて十分に研究されていないという問題点がある。そこで、先行研究を補完するとともに、新規点について論述する点に、本研究の意義がある。以下、収蔵されている日本の染織品の調査研究結果を記すとともに、収蔵された時代の史資料（原資料）の調査分析結果を論述する。

## 1. Le Musée des Arts Décoratifs の歩み

Le Musée des Arts Décoratifs は、公共福祉を目的とした 1901 年のフランス国内法に準拠して設立された非営利団体である<sup>(6)</sup>。この組織の母体は、L' Union Centrale des Arts Décoratifs (UCAD) である。

UCAD は、1864 年に創設された産業組合 (l' Union Centrale des Beaux Arts Appliqués à l' industrie<sup>(7)</sup>) と 1877 年に創設された装飾博物館協会 (la Société du Musée des Arts Décoratifs<sup>(8)</sup>) が基盤となり、1882 年に設立された<sup>(9)</sup>。

国際万博開催に際し、複数のコレクターが、工芸品と伝統産業の流通促進と、文化、デザイン、工業製品の発展の必要性を唱え、二つの組織が合わさり、新たな組織として生まれ変わった<sup>(10)</sup>。

設立後、1982 年に慈善団体として認可され、その活動が広く知られるようになった。UCAD の目的は、公共のコレクションの保存等、保管管理および文化の普及、創造活動への支援、美術教育、専門家養成と専門的訓練などである<sup>(11)</sup>。

UCAD の理念の根本には、芸術は、社会的で政治的な復興に対し役割をになっており、次世代に対し、政治家や思想家、芸術家は、社会的な責務を負っているため、一層の啓蒙が必要である。これは特に、工芸と、応用美術、産業製品、装飾デザインの分野で必要とされるものであると考えられていた。

このような、芸術と産業との結びつきは、18 世紀末から始まった産業革命を起点としており、

進歩した産業と伝統文化との融合が時代的命題であったと考えることは自然であろう。この考えは、18世紀末の産業革命とほぼ同時に考えられており、Pierre Jean Baptiste Chaussard や、教育委員会事務局長 (Secrétaire Général de la Commission de l'Instruction Publique ; 1815-1820)、作家などが発した1798年の「我々は、これまでの社会的な建物内の装飾における芸術の在り方を検討している<sup>(12)</sup>。」という言葉にも如実に見て取れる。このような時代的な背景から、特定の一部の関係者だけの問題としてではなく、国家的課題として考えられていた。この考えは、万博の開催を機に欧州へ広く普及し、とりわけ1862年開催のロンドン万博では、Sir. Retherford Alcock<sup>(13)</sup>が日本で自ら収集した美術品等600点以上が展示され、西欧の人々から注目を受けた<sup>(14)</sup>。ロンドン万博の主催者は、The Royal Society for the Encouragement of Arts, Manufactures and Commerceであり、美術と工芸、商業を奨励することを目的としており、具体的方策として、美術とデザインの産業への応用を掲げていた<sup>(15)</sup>。この展示が、日本美術を紹介する初の海外展であったため、ヨーロッパ、とりわけイギリスとフランスの芸術界に影響を与え、「ジャポネズム」のきっかけとなったことは良く知られている<sup>(16)</sup>。ロンドンでの成功を背景に、パリでも国家的指導組織として、1864年にl'Union Centrale des Beaux Arts Appliqués à l'Industrieが設立された。上述のように、この団体とla Société du Musée des Arts Décoratifsの二つの団体が基盤となり、UCADが組織された。このように、民間団体とはいえ、国家的な取り組みの中から生み出されたものであったため、UCADは、多くの文化人をはじめ俳優などからも支援を受けた<sup>(17)</sup>。

## 2. 収蔵されているコレクションについて

Le Musée des Art Decolatifsの所蔵するすべての文化財のうち、日本の染織品コレクションを抽出したところ、員数にして841点の存在が確認できた。先の調査<sup>(18)</sup>では721点とされていたが、

それを上回る数の染織文化財を発掘した。

それら841点の日本の染織品コレクションの概要把握のため、研究の第一段階として、Le Musée des Art Décoratifsの協力を経て、文化財にそれぞれ個別に割り振られている固有IDに従って作成された個別調書の調査を実施した。

## 3. コレクションの特徴

コレクションを概観すると、それらは時代的に区分でき、いくつかの群に分けられることがわかる。特に、日本の染織品コレクションは19世紀末および20世紀初頭に収蔵されたものが非常に多いことに気付く。

特に全体のコレクションを特徴づけている固有のCollection群として、19世紀末に収蔵された、Bing Siegfried Collectionがある。

現在、このコレクションはLe Musée des Art Décoratifsの中で個人コレクションの枠組みで特に注目され、Bing Siegfried Collectionとして展覧会が開催されるなど<sup>(19)</sup>、極東美術を象徴するコレクションとして長年にわたって親しまれ、博物館全体の中核的存在ともなっている。

## 4. Bing Siegfried について

Bing Siegfriedは、1871年ハンブルグに生まれた。ドイツ人の美術商である。美術評論家としても知られる。別名Bing Samuelと呼ばれる<sup>(20)</sup>。彼は、フランスに日本美術を広めた人物として有名である。

彼は、商家であった父および叔父に師事し、普仏戦争後に日本美術を扱う貿易商となりドイツでその専門家としての道を歩み始めた。その後、父がフランスパリで商売をするようになるに伴い移住し、1870年に自身でも、パリ9区の22 rue Chauchatに店を構え、アジアと日本の浮世絵版画と工芸品を扱う店を創設した。彼は、1875年に来日し、日本の絵画（浮世絵などの版画）、彫刻、そして美術工芸品を直接買い付けることに成功した。

Bing Siegfriedが、日本の美術品をフランスに広めたきっかけは、1875年のパリ万国博覧会に際し、

Pavillon de l'Art Nouveau Bing を設立し、極東の美術品を展示したことに始まる<sup>(21)</sup>。1888 年から 1891 年にかけては、「Le Japon Artistique」という豪華な月刊専門誌を創刊し、日本の古典美術および美術工芸品の紹介に努めた<sup>(22)</sup>。1890 年には、浮世絵の大展示会を L'Ecole des Beaux-Arts にて開催した。浮世絵に関して、Gisèle Lambert による詳細な解説があり<sup>(23)</sup>、冒頭、1892 年の 7 月 1 日に掲載された Edmond de Goncourt の新聞記事の紹介から始まり、1843 年に初めて日本の美術品（浮世絵）が S. Bing の店で取り扱われたということが述べられている。その記事には、浮世絵と陶磁器に関する記述はあるが、染織品が取り扱われていたという記録はない。これだけではなく、ギャラリーデュランドルエルにて、歌麿と広重を特集した展覧会を開催している。

Bing は、その後、欧州の美術史上看過できないアールヌーボー時代の中心的役割を果たすようになった。彼は、フランスだけではなくイギリスをはじめとして、諸外国でも展覧会を開催した<sup>(24)</sup>。また、ドイツの Museum für Kunst und Gewerbe Hamburg には、彼が販売した美術品の記録が残されている<sup>(25)</sup>。

## 5. 日本の美術工芸品と欧州との関係

日本は江戸時代、鎖国をしていたため日本の情報は、ごく限られた方法で欧州へ伝播した。鎖国中にフランスに伝えられたことが確認できる最初の情報は、VOIAGES AU NORD という書籍である<sup>(26)</sup>。しかし、鎖国以前の 1571 年にはフランスは、1542-1571 年間にキリスト教布教<sup>(27)</sup>の為に日本を訪れた Auger, Émond が著した報告書を取得し、情報を得ていた。Auger, Émond だけではなく、継続的にキリスト教布教のために訪れた宣教師たちからも、継続的に情報を得ていた<sup>(28)</sup>。鎖国中も、1604 年にアンリ 4 世によって設立された国営の貿易会社 Compagnie Française des Indes Orientales を経由して、情報を得ていたことが分かっている<sup>(29)(30)</sup>。日本は、1854 年に日米修好条約締結により鎖国は解かれ、1867 年に大政奉還となり徐々に海外との取引が行なわれるよ

うになったが、いつごろからフランス人が日本の染織品について興味を持っていたのかは、今のところ定かではない。しかし、Roland de la Platière の著した「Manufactures, Arts et Métiers (1784-1828)<sup>(31)</sup>」に日本の麻などの天然素材や生産される布（DRAPERIE）についての記述が見えることから、18 世紀末にはすでに注目されていたことがわかる。しかし一方で、美術的観点から日本の染織品についての評価に関する論述は見当たらず、日本の染織品の評価は、19 世紀末のアールヌーボーの登場まで待つことになる。

## 6. 平面デザイン資料としての活用

Musée des Arts Décoratifs の母体が、UCAD であることを、第 1 章で指摘した。UCAD の目的は、工芸品と伝統産業の流通促進と、文化、デザイン、工業製品の発展であり、創造活動への支援、美術教育、専門家養成と専門的訓練であった。

Bing Siegfried が、アメリカにわたり Tiffany の創作支援を行ったことは、良く知られている。Bing は、好評を博していた浮世絵に着想を得たのか、デザイン分野において、欧米にはないすっきりとした平面構成に特徴を持つ日本のデザインセンスに注目し、それを欧米の美術工芸に取り入れようと試み、浮世絵をはじめとした平面絵画の美術品収集を行った。その結果、Bing Siegfried は、デザイン見本と成りうる古裂帳と呼ばれる小さな染織品の端切れの収集に力を注いだと思われる形跡が、現在の Le Musée des Arts Décoratifs の Bing Collection に見られる。また、型紙が同等にコレクションとして収蔵されていることも、収集基準がデザインの価値を重視していたことを物語っている。

先に指摘した 841 点の日本の染織文化財のコレクションの内、およそ半数近くが古裂であり、このことこそが、Le Musée des Arts Décoratifs の日本染織文化財の最大の特徴である。

## 7. 古裂の価値

古裂帳というと、日本風に考えればその価値は、形態を留めていない分、価値が低く見られがちで



ある。確かに、飛鳥時代や奈良時代の法隆寺裂や正倉院裂などの古代裂は別として、小さな古裂に価値を見出すことは難しい。しかし、Le Musée des Arts Décoratifs の古裂は、一般的な古裂帳と異なる特徴を持つ。その第一の特徴は、収集年代が特定の期間であることである。収集された18世紀末から19世紀半ばにかけて、日本では、大きな時代的变化があったことが重要な意味を持っている。

明治時代に日本では、変化を急ぎすぎたためか、前の文化を否定することで新しい文化を創造しようとした。それは、古典や伝統を否定することであり、古いものに対する価値評価が著しく下がった。また、神仏分離という新しい国家政策は、古いものを否定する風潮から、廃仏毀釈という現象を生み、文化の破壊へと向かったことは有名な事実である<sup>(32)</sup>。一方で、神仏分離で破壊を逃れた仏教関連の美術工芸品は、海外に日本を紹介する良い資料見本として利用されるようになった。このような背景をもとに、見本として扱われ、Bing Siegfried Collection に収蔵されたと見られる古裂を、本調査によって確認することができた。

購入の経緯は、購入者と購入日によって知ることができる。Le Musée des Arts Décoratifs の個別作品調書では、Bing Siegfried の名前とともに、日付および露地で裂を購入したことが記されている。露地で裂を販売しているとすれば、それは、寺社の境内で行われる市の可能性が高い。これが、西本願寺の境内にて購入したという記録もある。

また、Bing Siegfried Collection の第二の特徴は、袈裟または打敷などの端切れと思われる仏教に関係する古裂が多いことである。法輪、龍、寺紋とみられる菊文様などが織り込まれた金欄銀欄が多く見受けられる。また驚くことに、古神宝類と共通性が多いデザインである松喰鶴文<sup>(33)</sup>や紫陽花松喰鶴文<sup>(34)</sup>、花菱地の鷲文<sup>(35)</sup>などが織り込まれた染織品の古裂が含まれていることである<sup>(36)</sup>。この点は、国内外のコレクションには見られない、Bing Siegfried Collection 独自の価値として評価できる。

古神宝類中の染織品は、表着、重桂、単、裳、表袴、襪などがある。日本国内には、熱田神宮の古神宝類（1458年足利義政奉納）の遺品などが存在する<sup>(37)</sup>。女房装束の遺品類は現存数が少なく、意匠および当時の技術を知る上でも貴重な資料として注目されている。古神宝類は、固綾織もしくは二重織の技法で織られていることが多く、その技法的特点に共通点を見出すことができる。

また、Bing Siegfried Collection ではないが、Le Musée des Arts Décoratifs のコレクションの第三の特徴は、珍しい染織品が収蔵されている点である。Le Musée des Arts Décoratifs の着物のコレクションといえば、まず第一に、多くの人が鯉の滝登りが刺繍された小袖を思い浮かべる<sup>(38)</sup>。しかし、注目すべきは、小袖以外にも能装束とみられる唐織が収蔵されていることである<sup>(39)</sup>。江戸期の唐織は織物技術の発達と共に豊かなデザインが施され、能の演出の一部としてその美しさが評価されている。江戸期の能衣装では、重要文化財に指定されている奈良の金春座伝来の能装束が有名であるが、日本国内に保存状態のよい能装束は少なく、Le Musée des Arts Décoratifs 所蔵の能装束は、日本国内にある江戸時代のものとひけを取らないコンディションのものである。同様に、狂言装束<sup>(40)</sup>も収蔵されている。また、安土桃山期の打掛も収蔵されている<sup>(41)</sup>。また、古裂類にも、藤<sup>(42)</sup>や蝶<sup>(43)</sup>、扇<sup>(44)</sup>など題目にちなんだ文様を唐織の技法で織り出したと見られる古裂が豊富に含まれている。

さらに、袈裟由来の古裂が多数収蔵されていること<sup>(45)</sup>や、Bing の死後に収蔵された江戸時代に珍重されていたと推測される14-16世紀の大陸由来の刺繍袈裟<sup>(46)</sup>がコレクションされていることも特筆できる点であろう。

これら充実したコレクションを収集できた背景には、Bing Siegfried が目利きであったことも要因として多分にあると思われるが、明治時代初期という文化変革の時期であったという時代的背景から、幸運にも明治以前には貴重な文化財として扱われてきたコンディションのよいものが、国の政策や思想的な動行を背景に手放され、海外で保

存活用されることになった。日本に現在あるコレクション群とは異なる特徴を持つ染織品群のコレクションとなっていることが指摘できる。

## 9. まとめ

Le Musée des Arts Décoratifs で調査を実施し、日本の染織文化財の Collection について考察および分析をした。研究の結果、以下のことを明らかにすることができた。

① Le Musée des Arts Décoratifs は、その設立母体との関係から、平面デザインとしての価値を基準として美術工芸品のコレクション化が行われており、それには Bing Siegfried が深く関わっていたこと。

② Le Musée des Arts Décoratifs の所蔵する日本の染織文化財群では、古裂のコレクションが充実しており、収集された 18 世紀末から 19 世紀という特定の年代が、明治の神仏分離・廃仏毀釈の時期と重なり、日本国内に残っていない宗教美術品と見られる古裂類が Collection されていること。

③江戸期の能装束と見られる唐織がコレクションされていること。また、袷袢類の古裂が多数あり、江戸期に珍重されていたと見られる大陸由来の 14-16 世紀に制作されたと見られる貴重な刺繍袷袢がコレクション中に存在することを確認することができた。

以上の結果を踏まえ、引き続き、Le Musée des Arts Décoratifs のコレクションのうち、日本の染織文化財に対して、文化財情報の取得および素材特性の把握を行い、細分類およびさらなる価値評価を行いたい。

## 謝辞

本研究は、出光文化福祉財団の研究助成を受け行われました。また、ここに深謝いたします。

## 《注》

- (1) Kenji Kitayama, Qu'est-ce que le japonisme ? -- Le japonisme était-il une révolution esthétique ou un commencement de la mondialisation esthétique ? , 成城大学文学研究
- (2) 国立西洋美術館, ジャポニズム展—19 世紀西洋美術への日本の影響 JAPONISME カタログ, 1988 年
- (3) Exposition Katagami, 19 octobre 2006-20 janvier 2007, Maison de la culture du Japon à Paris ; Nagasaki Iwao, Catalogue Geneviève Lacambre, Johannes Wieninger, et al., Exposition catalogue, Maison de la culture du Japon
- (4) 深井晃子, 長崎巖, 稲賀繁美, 周防珠美, 石関亮, ジャポニズムを背景とした着物の欧米における影響についての研究, 服飾文化共同研究最終報告書 2011, 2012.03, pp55-57, 共同研究番号 21006
- (5) <http://www.momak.go.jp/Japanese/exhibitionArchive/2012/392.html>
- (6) <http://www.lesartsdecoratifs.fr/en/about-us/more-about-us/>
- (7) Union Centrale de beaux-arts appliqués à l'industrie (1861-1901) A1/1-82 SERIE A, CONSTITUTION DE L'UNION CENTRALE DES ARTS DÉCORATIFS, Répertoire des archives institutionnelles.
- (8) Société du musée des arts décoratifs (1877-1884) A2/1-44, SEIEA CONSTITUTION DE L' UNION CENTRALE DES ARTS DÉCORATIFS Répertoire des archives institutionnelles.
- (9) Union Centrale des Arts Décoratifs (Ucad) Sous-serie As Répertoire des archives Institutionnelles.
- (10) Victor Champier, rédacteur en chef de Revue des Arts Décoratifs , la Direction de F.-G. DUMAS, La Société de l'Union centrale des Arts décoratifs Son Histoire 1863-1884, Catalogue Illustré de l'Union Centrale des Arts Décoratif, Contenant environ 200 reproductions avec une étude sur l'Art rétrospectif, Librairie d'Art L.Baschet 1884  
Union Centrale des beaux-arts appliqués à l'industrie, Sous-série A UNION CENTRALE DES ARTS DÉCORATIFS, Répertoire des archives institutionnelles.
- (11) Union Centrale des Arts, Décoratifs (Ucad) Sous-serie A3, 1880-1991 Répertoire des archives institutionnelles.
- (12) <<On a jusqu'ici considéré les arts comme les ornements de l'édifice social >>
- (13) 初代日本総領事(1859-1862), 「The capital of Tycoon」を著す。1862 年の竹内遣欧使節団派遣の貢献者としても知られる。遣欧使節団には福沢諭吉や福地源一郎が含まれている。
- (14) 展示品は、書画、染織品、甲冑、刀剣類など。万博を実際に見学をした竹内遣欧使節団の淵辺徳三、大塚武松編, 日本史籍協会, 「欧行日記」『遣外使節日記纂輯 第 3』, 東大出版会, 1987 に「骨董品の如く雑具」や、「かくの如き粗物のみを出せしなり」と記している。
- (15) 松村昌家, 一八六二年ロンドン万国博覧会場の幕末

- 使節団 (一), 大手前大学人文科学部論集 4, p111, 203
- (16) Bibliothèque Nationale de France direction des collections département Littérature et Art, Le JAPONISME EN FRANCE, De l'Impressionnisme à l'Art déco Bibliographie sélective, janvier 2009, pp1-26.
- (17) <http://www.lesartsdecoratifs.fr/francais/musees/musee-des-arts-decoratifs/collections/dossiers-thematiques/arts-decoratifs-et-design/verre/tresors-de-sable-et-de-feu/l-union-centrale-des-arts/>
- (18) 深井見子, 長崎巖, 稲賀繁美, 周防珠美, 石関亮, ジャポニズムを背景とした着物の欧米における影響についての研究, 服飾文化共同研究最終報告書 2011, 2012.03, pp55-57, 共同研究番号 21006
- (19) Gabriel P Weisberg, Edwin Becker, Evelyne Possémé, Musée des arts décoratifs (Paris), Van Gogh Museum (Amsterdam), Les origines de l'Art nouveau : la maison Bing; [exposition "L'art nouveau, la maison Bing", Van Gogh Museum Amsterdam, 26 nov. 2004-27 février 2005, Museum Villa Stuck Munich, 17 mars-31 juillet 2005, CaixaForum Barcelone, sept.2005-janvier 2006, Musée des arts décoratifs Paris, mars-juillet 2006]; [catalogue] L'Art Nouveau la Maison Bing, vangogh Museum, 2005
- (20) Bing Siegfried のコレクションを多数所蔵する Victoria and Albert Museum でも, Siegfried Samuel Bing として紹介している。 <http://www.vam.ac.uk/content/articles/s/siegfried-samuel-bing/>
- (21) Bibliothèque nationale de France direction des collections département Littérature et art, Le JAPONISME EN FRANCE, De l'Impressionnisme à l'Art déco Bibliographie sélective, janvier 2009, pp1-26.
- (22) S.Bing, Le Japon artistique, Documents d'Art et d'Industrie, Publication Mensuelle, Imprimerie Gillot, Paris 1888-1890, この専門誌は, MM.PH. Burty, Victor CHAMPIER, TH. DURET, Edmond DE GONCOUET, Louis GONSE, Eugène GUILLAUME, De L'Institut ; T. HAYASHI, Paul MANTZ, Roger MARX, Antonin PROUST, Ary RENAN, EDM. TAIGNY, De minents écrivains d'art de l'étranger の名が見える。海外の専門家や研究所の名は記述があるものの, 詳細は明らかではない。
- (23) Gisèle Lambert, Histoire d'une collection Estampes et livres illustrés de l'art ukiyo-e du département des Estampes et de la Photographie, Expositions, BNF, <http://expositions.bnf.fr/japonaises/reperes/01.htm>
- (24) Exhibition of l'art nouveau: S. Bing, Paris. [London], Grafton Galleries, 1899
- (25) The Museum für Kunst und Gewerbe Hamburg bought two vases directly from Tiffany Studios (inv. nos. 1900.332, 1900.333) and, at the same time, it bought others from Bing (inv. nos. 1900.334, 1900.337, 1900.338). Martin eidelberg, S.Bing and L.C. Tiffany: Entrepreneurs of Style, <http://www.19thc-artworldwide.org/summer05/61-summer05/summer05article/215-s-bing-and-lc-tiffany-entrepreneurs-of-style>
- (26) Non identifié, Illustrations de Recueil de voyages au Nord, Jean-Frédéric Bernard,
- (27) Historia rerum a Societate Jesu in Oriente gestarum
- (28) A Paris, chez Nicolas Nivelles, aux deux colonnes, rue S. Jacques. M. D. LXXXIX. Avec privilege du roy, Advertissement de la Chine, et Japon, de l'an 1585. 86. et 87. Avec l'arrivée & venu des seigneurs japonais aux Indes. Tirez des lettres de la Compagnie de Jesus. Receuz le moy d'Octobre 1588. Et traduitz d'italien en françois, sur la copie imprimée à Rome, 1589, p78
- (29) Ambassades mémorables de la Compagnie des Indes orientales des provinces unies, ver les Empereurs du Japon, chés Jacob de Meurs, marchand Libraire.
- (30) Fransais Caron Prefident, Relation de l'empire dviapon 1636
- (31) Roland de La Platière, Jean-Marie, Manufactures, arts et métiers. Tome 1 / ; par Mr. Roland de la Platière, Panckoucke, C.-J., 1784-1828, p256-
- (32) 辻善之助 他編, 新編明治維新神仏分離史料, 名著出版, 1984, 第1, 7, 8 巻
- (33) Morceau de tissu, 7370.E, 16 × 15 cm, 1892.11.12, Collection privée, Bing Siegfried
- (34) Morceau de tissu, 7389, 40.5 × 40.5 cm, 1892.11.12, Collection privée, Bing Siegfried, Lucien Marcel
- (35) Morceau de tissu, 7388.B, 22 × 15 cm, 1892.11.12, Collection privée, Bing Siegfried
- (36) 古裂類は, 文様パターンのサンプルとして扱われていたのか, 文様を中心にして 15-20 cm 前後の正方形に切り取られている。
- (37) [http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/main\\_details.asp](http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/main_details.asp)
- (38) Kimono, inv.8135, 1895.03.16, Pohl
- (39) Costume féminin textile, Inv. 17003, 18e, 155cm, Costume textile, Inv.11126, 19e, 1904.02.13, Gillot より購入。
- (40) Costume de spectacle, Inv.19534, 17e, 112 × 136 cm, collection privée, Collection à Bing, Lucien Marcel 1913 年 11 月 京都西本願寺の露店にて購入の記録あり。1914.3.11, Bing より購入。
- (41) Costume textile, Inv. 11126, 1904.2.13, Gillot. 調書には, 外出用の着物と書いてあり, 他の着物の上に帯なしで羽織ると書かれている。
- (42) Morceau de tissu, Inv. 7362A, 11 × 9 cm, Collection privée Bing Siegfried, 他多数。
- (43) Morceau de tissu, Inv. 7383A, 45 × 24, 1892.11.12, Collection privée Bing Siegfried,
- (44) Morceau de tissu, 18e, 145 × 82 cm, 1917.1.20, don manuel
- (45) 例えば, Morceau de tissu, 7355.A, 22.5 × 22cm, 7355.B, 21 × 20cm, 7355.E, 23 × 15cm, Collection privée, Bing Siegfried
- (46) Mouceau de tissu, Inv. 25969, 14-16e, 115 × 95 cm, 1927.7.01, Rupalley